

ぎっかけをつなぐ旅によう「パスポート」

PASSPORT.



vol. **63**
FREE PAPER
地域の出来事に触れる
ソーシャルマガジン

とくしま自然観察の会 特集 Natural observation in Tokushima.

自然と生きる。

あ！
みつけた！



とくしま市ほせつろー



Editor's note 編集後記

自分の住むまちがもっと好きになる旅でした。

実は私、中学生のときに理科の課外研究としてシオマネキについて調査をしたことがあるんです。夢中でカニたちを追いかけたこと、足が泥にはまって抜けなくなってしまったこと……あのときの出来事は今でも強く心に残っています。今思えばそれは、私が環境や地域に目を向け始めた第一歩だったのかもしれない。触れ合うことで分かる“自然とともに生きる”ということ、その意味を、ぜひ感じてみてください。

ー 長谷川 (構成/写真)

普段何気なく通っていた場所はたくさんの生き物が生息し、更に生態をさぐれば…新たな発見ができるんだと教えて頂きました。当たり前のことのようで、でも目をこらさないと見えてこないような。そんな面白い世界が広がっているんです。いつもの日常や自分の身近な場所をもっと好きになるきっかけになると思います。みなさんも少ししゃがんで、干潟を見てみて下さい。新しい発見があるかもしれません。

ー 神倉 (デザイン)

NEXT ISSUE 次回予告 2017年12月配布予定。次回の旅も是非楽しみ下さい。

とくしま市ほせつろー TOKUSHIMA NPO CENTER

発行月 2017年10月
号数 63号
発行 徳島市市民活力開発センター
〒770-0847 徳島県徳島市幸町3丁目71番地の1 幸町会館1階
[TEL] 088-611-3886
[FAX] 088-624-3860
[mail] nposhimin@fm.nmt.ne.jp
[WEB] www.tokushima-shikatsu.com



↑おまねきシールと神倉



↑足がはまって動けない長谷川

ABOUT PASSPORT.

“PASSPORT.”それは皆さんを特別な旅へとお連れするチケット。行く先に広がるのは、団体の活動や人の想いに溢れた景色。見て、感じて、もっと知りたくなる。そんなぎっかけをつなぐソーシャルマガジン。これを手にする皆様に、どうか素敵な出会いがありますように。

See you next time.



この広報誌に関するご意見、ご感想は発行元である徳島市市民活力開発センター(088-611-3886)までご連絡下さい。

干潟の冒険に 出発しよう!

とくしま自然観察の会って?

Natural observation in Tokushima.

“誰でも気軽に参加できる観察会”をモットーにして、身近な自然を楽しみながら、自然について考えるためのネットワークづくりをしようと1994年に発足。定期的な自然観察会(吉野川干潟や城山の探検・タウンウォッチング・セミの羽化の観察・星空観察など)を開催し、自然をととした井戸端会議や干潟についての市民調査等を行う。

■プロジェクトのご参加やお問合せはこちら

[TEL] 088-623-6783

[mail] kansatsunokai@gmail.com



↑ Facebook



かっしゅーいー!



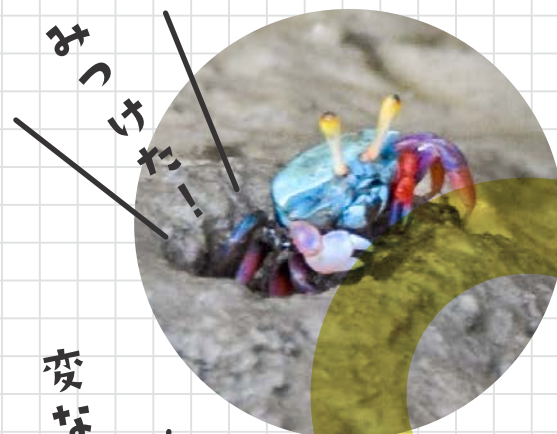
みっけーたー!



ヨシ原を駆け抜ける風の音、かすかな潮の香り、そこに住まうたくさんの生き物たち……ここは新しい発見が詰まりに詰まった最高の遊び場! 自然との触れ合いから学ぶ大切なこと、私たちのまじのこと、知りに行こう。



あ
るど
かん
なな
あん



み
う
け
た
ー



わ
ろ
そ
ろ
ー



シオマネキ観察会レポート

2017年7月29日、まさに夏真っ盛りという天気だったこの日、約40名の人が吉野川河口干潟（住吉干潟）に集まっていた。とくしま自然観察の会が開催する「シオマネキ観察会」への参加者である。子どもたちはみな長靴を履き、干潟の中へと足を踏み入れていく。

「カニめっちゃおるー」
「うわーなにこいつ!? 変なおるー!」
「足がはまって抜けんー!」
子どもたちの間に嬉々とした歓声が飛び交う。

泥んこになったその姿には親御さんも少し呆れ顔だったが、これほど思う存分自然で遊ぶこと、生き物に触れ合ったりできる機会は滅多にないそうだ。

四国三郎の名で全国にその名を知られる吉野川、その河口の干潟には多種多様な生命が息づいている。シオマネキは河口や干潟に生息するスナガニ科のカニであり、絶滅危惧Ⅱ類に指



変
なん
おる
ー!



定されている希少種だ。片方はさみだが異様に大きいその見た目は特徴的で、求愛行動であるウェービングをしている姿はなんとも可愛らしい。ちなみに、はさみが片方だけ大きいのは雄だけ。シオマネキの他にも、シギやチドリ等の鳥たち、トビハゼや魚の稚魚、ゴカイやアサリなど泥や砂の中にすむ生き物、顕微鏡でしか見ることでしかない小さな生物たちが溢れている。これほどの生物が「カ」所の干潟で観察できるといのは、実は全国的に珍しいことである。とりわけシオマネキに関して言えば、まとまった個体群を観察できるのは有明海沿岸と宮崎県本城川河口と吉野川河口干潟ぐらいであるとのこと。吉野川は人の暮らしと自然とが絶妙なバランスを保った、非常に貴重な存在なのだ。



め
っ
ち
ゃ
お
る
ー!

とくしま自然観察の会は、そんな身近な自然をよく観てよく識るための自然観察会を定期的に開催している。一人でも多くの人に自然のつながりを見つめなおすことの大切さを伝えるとともに、自然保護の仲間づくりのためのネットワークを広げている。私が訪れたこの日は、干潟の中に各生物の観察スポットを用意し参加者が行きたい場所から自由に出向いて自由に観察ができるようにしていた。それぞれのポイントにはスタッフが待機しており、その生き物やこの干潟の特徴や環境について説明をする。子どもたちは興味津々にその話を聞き、目の前に広がる干潟の景色を楽しんでいるようだった。楽しみながら自然の景色や生き物のこと知り、環境のことが近しく感じられるようになる。直接触れ合ったからこそ分かることがある。そこで経験したことは、きっと大人になっても残り得るものになるだろう。



とくしま自然観察の会 活動内容

自然観察会の開催

吉野川干潟や城山の探検・タウンウォッチング・セミの羽化かんさつ・星空かんさつなど

自然をとおした 井戸端会議の開催

ビデオ上映会・自然についてのお話し会・環境入門セミナー

人材育成

NACS-J自然観察指導員の講習会や研修会の開催

環境学習の応援

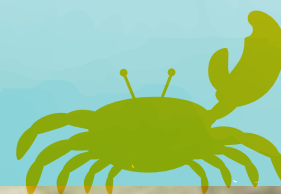
干潟などの出前観察・自然についての出前話し会

干潟や身近な自然環境 についての市民調査

自然保護の ネットワークづくり

インターネットによる発信・シンポジウムやパネル展の開催・NACS-JやWWFジャパンの普及活動・他の団体の干潟案内など

吉野川っていい川やなあ、徳島のよさが次々と伝わっていくように
若い人たちにひきついでほしいなあと思うのです。



とくしま自然観察の会

井口 利枝子

Rieko Iguchi

「いやあ、ここはすごくおもしろい！」

屈託のない笑顔でそう話すのは、とくしま自然観察の会代表の井口利枝子さん。生き物や自然と触れ合うことの楽しさを、そういった環境が残っていることが当たり前ではないということ、を色んな人に知ってもらいたいと言う。1994年、井口さんは当時幼稚園に通っていた娘とともにとくしま自然観察の会を立ち上げた。自然観察指導員の講習を受けて自然の見方を学び、観察会を開催していくうちに仲間も増え、ときには100人の老若男女の参加者が集まるときもあったという。観察会以外にも、しおまねきコンサートやしおまねき寄席、展覧会、干潟の人形劇等も催した。

「自然保護っていうと特別なこと難しいことになってしまいがちやけど、私たちは普通の主婦とかやし、特別な人が考える特別なことなんかじゃないっていうのが浸透していったほしいんよね。」

生き物との出会いの先に見えた、環境と人の暮らしの関わり。それを楽しく面白く、より自分事に感じてもらえるやり方がこの自然観察の会だった。吉野川河口には淡水と海水が入り交わり、川、海、陸、空の生き物が群がり、多種多

様な生命の活動が賑わっている。その恩恵は産業や文化に広く及ぶだろう。河川敷に広がるヨシ原が水質の浄化をし、干潟に生息する力こたが有機物をこしとって水をきれいしてくれる。そして干潟はそこに住まう生物のえさを大量に生み出してくれる。自然を観察することで、その環境で営まれてい

る生命の循環が見えてくるのだ。それを子どもの中に経験してほしいのだと井口さんは言う。

「トビハせてほんまに飛ぶんや!とか、シオマネキがこんな動きしよったよ!とか、とにかく生き物がこんなにもおるってこと、その行動を知ってほしい。ややこしい話をしなくたって、ここに来たら見えるやん。その経験はきつと体に残ると思うんよね。それがいつかその子が大きくなったとき、自分の住んでいる場所のことを、環境のことを考えるきっかけになるんじゃないかって。それにこんなことを体験してるっていうのは、都会に行ったらすごい強みになると思う!」

観察会のシーズンは4月〜9月。今年度の観察会のシーズンはもう終わってしまったが、ぜひ一度この観察会に参加してみしてほしい。そうすればきっと、私たちが暮らすこと、生きるということが、思っていたよりもずっと自然に寄り添ったものであったのだということに気付くだろう。

「こんなにおもしろい場所を知らないのはもったいない!生き物と触れ合える環境を、自分達の暮らしにそれを取り

入れてくれる機会を守り続けたい。」この景色がいつか昔話になってしまわぬように、とくしま自然観察の会の活動はこれからも続いていく。

